

高圧ガス施設等津波被害軽減対策事例シート

<b>整理番号</b> 24	<b>実施項目</b> 非常用電源の高所化（新設）	
<b>大項目</b> 緊急措置体制	<b>細項目</b> 非常用電源の確保	<b>関連事例</b> 22, 23
<b>実施対象施設</b> 事務所棟等	<b>実施費用</b> —	<b>実施に要する期間</b> —
<p><b>津波被害事例等</b></p> <p>○東日本大震災では、東北地方の事業所において地震・津波による電源の喪失等が多数発生しており、電源が喪失すると二次災害防止のための活動に支障が生じることが想定される。</p>		
<p><b>津波対策事例</b></p> <p>津波浸水予測結果を踏まえ、非常用電源を高所（事業所ビル屋上）へ新設した。新設電源の概要は次のとおり。</p> <p>〈新設電源の種類〉 屋外型震災停電対策用マイクロガスタービン発電機（軽油焚き・燃料タンク付属）</p> <p>〈新設電源の容量〉 29kW、100V</p> <p>〈新設電源の用途（目的）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常対策本部（事業所ビル8階）の照明</li> <li>・TV、ラジオ、ユーティリティ等のコンセント電源</li> </ul> <p>〈新設電源の設置場所・高さ（想定浸水深との関係）〉 設置場所：事業所ビル8階の屋上（G Lから約30m） 想定浸水深さ：1.2m（県津波浸水予測による）</p> <div data-bbox="472 1258 1276 1729" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">図 新設電源の設置状況</p>		
<p><b>要点</b></p> <p>○地震・津波対策の中核である非常対策本部の電源が喪失すると、情報収集・指揮命令活動に支障を生じ、二次被害が拡大するおそれがある。</p> <p>○したがって、この用途の非常用電源を津波による被害を極力受けない高所に設置しておくことは重要と考えられる。</p>		